

[特集] 熊本地震から10年ー

# 被害を防ぐために、 今できる災害への備えを

【問い合わせ先】防災交通課 ☎0968(25)7203

熊本地震での市の主な被害			人的被害と建物被害		
震度別回数			被害状況		
震度	菊池市	熊本県	項目	被害状況	
震度4	24	120	死亡	4人(災害関連死)	
震度5弱	2	13	人的被害	重傷	20人
震度5強	2	5		軽傷	56人
震度6弱	1	3	建物被害	住宅	[全壊] 58棟 [大規模半壊] 74棟 [半壊] 610棟 [一部損壊] 2898棟
震度6強	1	2		その他	[全壊] 371棟 [大規模半壊] 133棟 [半壊] 746棟 [一部損壊] 866棟
震度7	0	2			

罹災証明発行		農林産業関係の被害	
項目	件数	項目	被害額
住家・納屋	6137	農作物被害	1億5971万1千円
農業関係	175	農業施設被害	39億3903万1千円
店舗・工場	378	農地・農業用施設(田畑や農業用水路など)	4億4500万円
		林業被害	5億5387万円

参考:平成28年熊本地震 記録集 ~農林水産業関係 2年間の歩み~(県農林水産部)

市への支援		義援金・寄付金	
自治体	自治体数(延べ)	項目	金額
物資	72	義援金	1億824万5374円
人員	25	寄付金	6112万1590円
その他	18		

## 過去を忘れないために

地震は苦しい経験でしたが、「支え合い」という希望の光が被災地を照らしていました。その様子を当時の広報紙と動画で取り上げています。苦しい中でも力強く立ち上がった姿を振り返ってみてください。



平成28年6月号 動画



平成28年4月14日に前震、16日に本震が発生した熊本地震。本市でも震度6が2度観測され、甚大な被害を受けました。地震から10年、改めて防災について考えます。

**予期せぬ大災害**

平成25年、政府の地震調査委員会は、熊本地震の原因となった布田川断層の地震発生確率を「今後30年以内に最大0.9%」と見積もっていました。

ところが、熊本地震では前震と本震で、立て続けに震度7を観測。当時、日本で震度7を観測したのは5度目ですが、続けて観測したのは熊本地震が初。前例のない大災害に見舞われました。

**被災から復興へ**

本震が発生した4月16日、旭志地区で最大震度6強を観測。市内全域に避難勧告が発令され、前震後に開設していた4カ所の避難所を27カ所に増やしました。

16日の夜には5千人を超える人が避難。旭志グラウンドでは地盤沈下が発生。広範囲の停電や一部地域での断水、家屋倒壊など、各所で甚大な被害を受けました。

そんな中、地震発生直後から市民による支援活動が始まります。炊き出しや支援物資の配達、がれきの撤去作業など、市民一人一人が自分たちができることを始め、お互いに助け合いながら確実に復興への歩みを進めていきました。

**防災に必要な3つの「助」**

あの日から10年。地震は予測しづらく、次いつどこで起こるか分かりません。熊本地震の経験を生かし、次の地震に備えることが、命を守る第一歩です。

防災には、自分で自分を守る「自助」、地域で助け合う「共助」、行政が行う「公助」の3つの助があります。それぞれの立場で、今できることを考えてみましょう。

熊本地震発生からの市の状況

2021	2020	2018	2017	2016
11.12	7.31	2.5	3.24	11.1
その後も備蓄品の確保や自治体・民間企業との連携協定など、防災力の向上に努めています。	総合体育館に、防災備蓄倉庫が完成	道の駅旭志に、防災拠点施設が完成	道の駅旭志に、防災拠点施設が完成	「きくち防災・行政ナビ」配信開始
			菊池溪谷が2年ぶりに再開	菊池・阿蘇スカイラインの仮復旧が完了
			文化会館で「熊本地震復興の集い」を開催。地震の経験を後世に語り継いでいくとともに、支援をいただいた自治体や団体に感謝を伝えました。	断続的な強い雨により、地震で地盤が緩んでいた斜面で大規模な崖崩れが発生
			11:00 開設避難所閉鎖	災害復興本部へ移行
				陸上自衛隊第3師団(兵庫)が市に到着し、給水支援を開始
				市社会福祉協議会が、ボランティアセンターを開設
				被災建築物応急判定実施本部設置
				「避難勧告」を解除
				緊急消防援助隊(大阪府)が総合体育館を拠点に阿蘇地方を支援
				開設避難所の避難者数が最大5052人となる
				7:30 菊池池体育館で支援物資の受け入れ準備開始
				順次 避難所を27カ所に増設
				1:30 市内全域に「避難勧告」
				1:25 震度6強
				22:00 災害対策本部設置
				21:26 震度5強
				災害警戒本部設置(自動)

# 自助

## 防災はまず「自助」からー

菊池市防災士会会長、市防災マイスター  
田嶋秀美さん(東正観寺)



令和4年に防災士の資格を取得。令和6年から市防災マイスターとしても活動し、地域や学校で防災講座を実施している。令和7年8月に菊池市防災士会の会長に就任。

災害が起きたとき、最優先するべきは自分を守ることに。自分でできる日頃の備えについて、防災士に話を聞きました。

助けになります」と続けます。避難所の場所や経路など、災害が起きる前にしっかりと確認しておくことが必要です。

飲料水や食料品は、普段から少し多めに購入すると、余りを備蓄することが出来ます。それを古いものから消費し、新しいものを買えば「ローリングストック法」を日常的に取り入れると、量も保管場所も無理なく備蓄することが出来ます。

### 自分の命を守る行動を

「災害が起きたとき、最優先は自分の身の安全を確保することです」。菊池市防災士会の田嶋秀美会長は力を込めます。「災害が起きた時は慌ててしまい、冷静に行動できない可能性があります。あらかじめ自分の行動を決めておく『マイタイムライン』を作成すると、冷静な行動や早めの避難の手

「熊本地震では、水が濁り約2週間、水道水を使えませんでした」。普段は気にせず使用していたものが、急に使えなくなった経験から、備蓄品の大切さを学んだと当時を振り返ります。

「小さなポーチに常備薬やティッシュ、好きなお菓子などを入れ、普段よく使っているカバンに入れて持ち歩く『ちよつと備蓄』もお勧めです」と田嶋さん。

人間は1日あたり2〜3リットルの水が必要といわれています。家族が多いと備蓄する量も増え、一度に準備をすると、保管場所の確保も大変です。

「備蓄品は災害時にしか使わないと考えがちですが、普段使っているものや食べているものなど、自分に合ったものを災害時でも使えるように備蓄することが大切です」

## 地域で取り組む助け合い

藤田区自主防災会

高木孝弘会長

岩木博文副会長

高木良一顧問

(防災士、市防災マイスター)



藤田区自主防災会  
平成26年に設立し、翌年から年に1回、防災訓練を実施。令和5年に区の防災計画を作成。令和7年2月、第29回防災まちづくり大賞日本防火・防災協会会長賞を授賞。

一人の力では限界があります。そこを補い合う地域の取り組みについて話を聞きました。

### 備えの大切さを実感

「訓練のおかげで、熊本地震発生から1時間で全区民の安否を確認できました」と話すのは、藤田区自主防災会の高木孝弘会長。安否確認後は、地域を巡回し被災状況を確認。倒壊したブロック塀を協力しながら撤去するなど、迅速な復旧作業が実施できました。「声を掛け合うだけでも、逃げ遅れや二次被害を防止できます」

被害を最小に抑え、少しでも早く復興するためには、地域の協力が不可欠です」

の専門機関とも連携が可能になり、区内外の力を合わせて、着実に地域の防災力を高めています。

「過去に区内の川が氾濫したことがあり、みんなが防災の大切さを感じていたと思います」。副会長を務める岩木博文さんは、現役消防団員の頃、胸までつかかるほどの河川氾濫を経験しました。

「会の立ち上げや訓練が最初から順調に進んだのは、普段の交流があったからだと思います」。会の設立当初から訓練に携わり、現在は防災士と市防災マイスターである高木良一顧問はこう話します。

区には、災害を経験した消防団、市役所、警察のOBなど、緊急時のノウハウを持つ人材がいます。会の設立により、そのノウハウを区全体に共有することが可能に。また、消防署や熊本県立大学など

「区では、20年以上前から夏祭りを実施しています。こうした交流があったからこそ、熊本地震では地域が一丸となることができました。今後も、地域の交流を大切にしていきます」

### 藤田区の特徴ある取り組み

#### 年に1回 防災訓練



昨年3月の避難訓練には、区民約100人が参加。

#### 地区防災計画

地震や火災、風水害など、さまざまな災害に対応するために区の防災計画を作成し、役割分担を定めています。



計画書

#### 分散型避難

避難の拠点となる公民館は洪水浸水区域に位置しているため、洪水に備えて公民館の他に5カ所の避難場所を設定しています。

#### 大学との連携

熊本県立大学協力の下、区内の河川に定点カメラを設置。カメラの映像は誰でも、いつでも見ることができ、避難するかどうかの判断に役立っています。

### 自分の身を守るための備え

※詳細「市総合防災マップ」

#### マイタイムラインの作成

地震や大雨、台風など、災害に応じた防災行動を時系列的に整理できます。作り方などの詳細は、市総合防災マップや県ホームページで確認できます。



ホームページ

#### 家の中の安全対策

寝室や子ども部屋、高齢者のいる部屋には大きな家具を置かない、タンスや冷蔵庫、食器棚などはL字金具で固定するなど、大きな揺れに備えましょう。

#### 防災リュックに必需品をまとめる

食料の他に、衣類やタオル、携帯の充電器など避難所で使うものをリュックにまとめ、いざというときにすぐ持ち出せるように準備しておきましょう。

#### 免許証や通帳などのコピーを用意

貴重品も持ち出しやすいように準備しておきましょう。紛失したときに備えて、原本のコピーをとり、備蓄品と一緒に保管しておくのが便利です。

## 「知ること」は防災の第一歩

防災の第一歩は「知ること」です。自分や家族のために、ぜひご利用ください。

### きくち防災・行政ナビ

防災無線や生活に役立つ情報などを、スマートフォンやタブレット端末で受信できる多言語対応の無料アプリケーションです。



Android



キクチカラ



iPhone

### 菊池市安心安全メール

- 宛先に「kam@123123.tv」と入力し、空メールを送信。
- 10分程度で届く「菊池安心メールのご登録」を開き、文章の下段にあるURL(アドレス)を選択。
- 「会員登録」画面を開いたら、当てはまる項目を選択して登録。

右記の二次元コードを読み込むと、手順①空メールの宛先入力の手間が省けます。



### 菊池市総合防災マップ

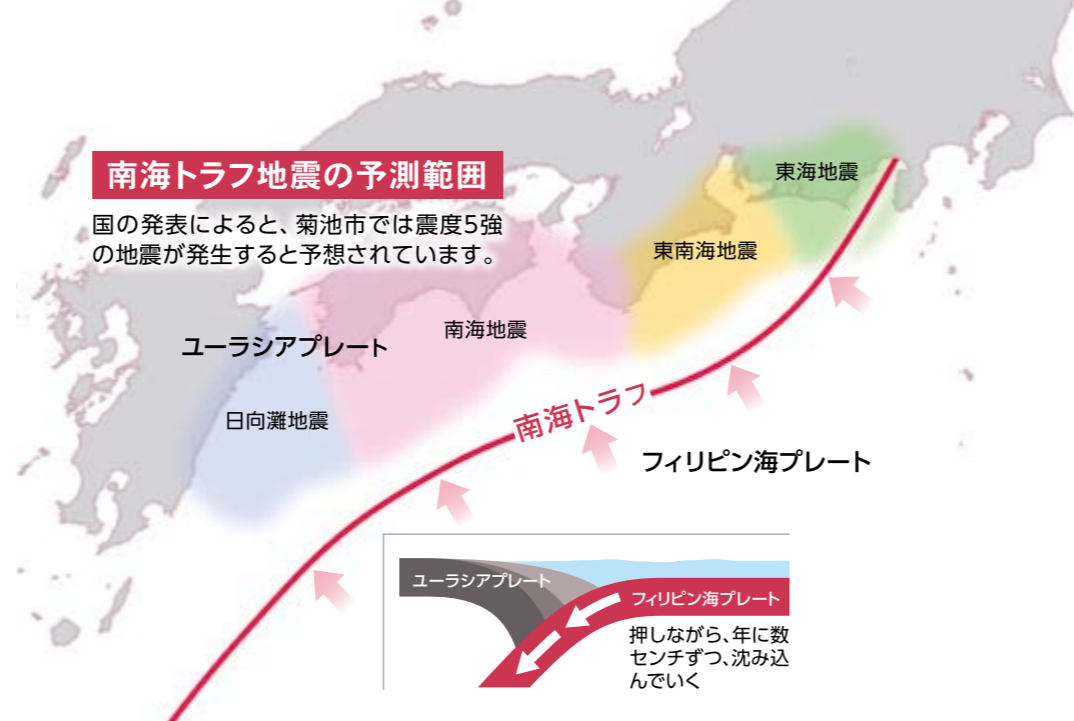
洪水浸水想定区域や土砂災害(特別)警戒区域などの情報の他、指定緊急避難場所の所在や防災に役立つ知識なども掲載しています。



ホームページからも見ることができます。



※防災マップは全戸配布しています



熊本地震の発生以降、国内では2度の震度7を観測。今後、南海トラフ地震の発生も予測されています。いざというとき命を守るために、今、私たちにできることー

自分と家族を守るためにー

今後30年のうちに80%程度の確率で発生するといわれている南海トラフ地震。太平洋沿岸の地域を中心に、過去最大規模の被害が予想されています。そのため、本市への給水をはじめとした支援が見込めないことも予想されます。「全国でも大きな災害が起きます。自分でも大きな災害が起きます。自分の子ども、家族に

もしものことがあったらと思うと、何かせずにはいられません。防災士の田嶋さんは、母親としての心境を語ります。

災害は、いつ起こるか分からない。だからこそ、今、私たちがやるべきことは「備える」ことです。

できるときに、できるだけの備えをー。私たちにできることを今一度整理して、いざというときの備えをしておきましょう。

# 防災力の受け皿としてー

災害発生時は、全ての力を合わせる必要があります。その受け皿となる行政の取り組みを聞きました。

防災交通課 松永慶二 危機管理監



### 備えと啓発

「平成24年九州北部豪雨の経験から、防災体制の強化や備蓄品の確保を進めてきました」。松永慶二危機管理監はこう続けます。「市でも備蓄をしています。そこを補うために、民間企業や他自治体との連携を進めています」

市の防災力を高めるため、防災訓練や出前講座、防災人財の育成にも取り組んでいます。平成29年2月から防災士養成講座を開始し、これまでに300人以上が防災士となりました。

令和4年度にはキクロスカレッジがスタートし、防災マイスターも誕生。地域や学校で防災講座を開催するなど、人材と市が協力しながら普及啓発を行っています。

### 連携の「力」

災害が発生すると、市は地域防災計画に基づき、対応を行います。現状の把握と整理、避難所の開設や物資の配給など、被災者がいち早く元の生活に戻るための支援を行います。「すぐに支援ができる



防災出前講座で、説明を行う防災交通課の米村雅司係長

体制を整えています。すべての被災者に支援が行き届くには時間がかかってしまう場合があります」と松永管理監。

熊本地震では、本震が発生した日にヘルスメイトや市民による炊き出しが始まりました。2日後には、市社会福祉協議会がボランティアセンターを開設し、物資の配達やがれきの撤去作業を実施。多くの人が協力し合い、力を合わせることで、着実に復興を進めることができました。

「被害を最小に抑え、いち早く復興に向かうためには、全ての力を合わせる必要があります。いざという時のために、あらゆる人たちの連携を強化していきます」

当時の危機管理専門委員に聞く

## 「想定外」をなくす努力が必要

前震後も高い警戒態勢を維持していたので、本震時は迅速な初動対応ができていたと思います。

市民の皆さんによる炊き出しや県外からの応援など、多くの支援をいただき、当時は思い返すと感謝しかありません。

災害ではよく「想定外」という言葉が使われます。想定外があるのは仕方のないことですが、できるだけ少なくするための取り組みが必要です。

過去の教訓を無駄にしないよう、日頃の備えが大切だと思います



のむらこうじ 野村浩司さん(深川)

### 公民館主催講座「熊本地震10年」

当時の菊池の様子を振り返るとともに、熊本地震震災ミュージアムの見学も実施予定です。防災意識と地域の絆の大切さを改めて考えるきっかけにしませんか。

- 日程 ①5月22日(金) 午前10時～11時30分  
②5月29日(金) 午前9時～正午

対象 市民 定員 20人 受講料 700円

※申込方法や詳細は15分「キクロスだより」をご覧ください

### 出前講座「命を守る防災のおはなし」

近年、災害が多発する中、自分の命を守るために一人一人が取り組む「自助」のポイントを防災交通課の職員が分かりやすく説明します。(出)視も実施可能です。

対象 市内在住または在学・在勤で、10人以上の団体  
※会場は市内に限ります。会場の手配や準備などは、申込者でお願いします

申し込み先 防災交通課 ☎0968(25)7203